

日本音楽集団1982年度前期定期コンサート・シリーズNo.71

# 尺八・箏二重奏曲特集

1982年6月10日(木)午後7時開演

青山タワーホール

構成・中島隆

主 催

現代邦楽協議会

日本音楽集団

# ——曲目と演奏者——

## 一、まゆだまのうた/長沢勝俊作曲

〔尺八〕 米澤 浩   〔箏〕 花房はるえ

## 二、箏と尺八による「馨」/田村拓男作曲

〔尺八〕 竹井 誠   〔箏〕 宮越圭子

## 三、ひなぶり/三木稔作曲

〔尺八〕 田嶋直士   〔二十絃箏〕 内藤洋子

## 四、みずほのうた/宮田耕八朗作曲

〔尺八〕 宮田耕八朗   〔二十絃箏〕 白根きぬ子

## 五、秋の曲/三木稔作曲

〔尺八〕 福田輝久   〔二十絃箏〕 滝田美智子

## 六、二十絃箏とフルート(尺八)のための二重奏曲/堀悦子作曲

〔尺八〕 三橋貴風   〔二十絃箏〕 吉村七重

## 七、萌 春/長沢勝俊作曲

〔尺八〕 宮田耕八朗   〔箏〕 宮本幸子

### ごあいさつ

ついこの間まで、緑の葉に心をおどらせていたあのあじさいに、ひとひらひとひらの花がつき、雨にうたれながらうすむらさきの色を鮮かに映しだし、うっとうしい梅雨の季節の中になにか新鮮でキラキラとひかるものを感じるこの頃です。

本日はお忙しい中お出かけ下さいましてありがとうございます。日本の楽器の中で常にその土台を支えてきた二つの楽器、尺八と箏、ポピュラーでありながらその個性ある楽器の織りなす重奏。ステージにならぶ楽器に何の変化もありません。しかし、一曲一曲になんとも言えぬすがすがしいものを感じとって下さい。うっとうしいこの梅雨空をふきとばすごとく……。

どうぞ最後までゆっくりお楽しみ下さい。

(中島 隆)

# 曲目の解説

## まゆだまのうた

“まゆだま”とは小正月にもちや団子を玉にして木の枝につけ、その一年のまゆが豊かにできるよ  
うにねがって行われる行事です。蚕からまゆを作り糸を紡いで絹を作り出す作業は現代では大変ま  
だるっこしい作業ですが、そこには、我々民族が長年かかって育くんだ美への叡智が光っています。  
この曲は箏を主とし尺八を従とした二重奏曲で、絹への賛歌人間への賛歌が歌われています。演奏  
時間は約9分。

## 箏と尺八による「馨」<sup>けい</sup>

“馨”とは香するという意味のほか、感化力やよい評判などが遠くまで伝わるという意味があります。  
心地よい変拍子と色合いをおりませ、自由な形式の、尺八と箏で綴る作者の今日の詩です。日本音  
楽集団の常任指揮者田村拓男が、自ら企画した1977年の定期演奏会「演奏家による作曲へのアプロ  
ーチ・その一」のために作曲、演奏されました。演奏時間は約10分。

## ひなぶり

ひなぶりとは田舎風のこと。尺八の素朴さと二十絃箏のかいぎやくが自由にかけ合わされ、スケ  
ルツオを構成してゆきます。途中二十絃のソロが作曲者の故郷の阿波踊り風リズムに乗り、次第に  
尺八とからまりながら即興の限りをつくします。

1975年に二十絃箏の野坂恵子とフルートのS.ガッツェローニのために書かれた二重奏曲で、後に二  
十絃と尺八のために改作されました。

## みずほのうた

東京生れながら、幼い頃しばらく田舎で農作業の手つだいなどをして育った作者にとって、緑の  
水田も黄金色の波うつような稲穂もたまたま好きな風景でした。

緑の水田、収穫の期待。

水ぬるみトンボが飛びアメンボが泳ぐ夏。

黄金色の稲穂の波と、喜び、歌、踊。

そして現在、急速に失われてゆく水田への追憶と告発の意志をこめて……

遠い山なみにしずむ大きな赤い夕陽を想いながら曲を終ります。

1978年に作曲され、演奏時間は7分20秒です。

## 秋の曲

三木稔作曲

哀しく美しい第三の季節“秋”に触発されて、二十絃箏と尺八のために書かれました。全体は二  
章に分れ、〈序章〉は二つの楽器の対話で進められるParland rubato。主部にあたる〈秋のファンタ  
ジー〉はテンポが早くなり、両楽器に下降音型が特徴的に現れるTempo giustoの主部の間に、や  
や雅びを尊ぶゆるやかな部分がはさまれています。1980年坂田誠山の第一回リサイタルのために書  
かれました。演奏時間は約13分です。

### 〈急の曲〉(三木稔作曲) 他、放送される

来る7月8日(木)午後8時、NHKFM放送で、三木稔作品特集として〈鳳凰三連〉(序の曲・破の曲・  
急の曲)、〈春琴抄序曲と春鶯囀〉及び〈くしおさい〉(二十絃とチェロのための)が放送されます。〈急の  
曲〉は昨秋ゲヴァントハウス・オケとの初演のライブ録音、〈破の曲〉は二十絃箏独奏野坂恵子とN響、  
他の二曲は東フィルと坂田・野坂・坂井の演奏です。

## 二十絃箏とフルート(尺八)のための二重奏曲

この作品は1969年、野坂恵子の第二回箏リサイタルのために二十絃箏とフルートのための作品として書かれ、初演されました。そして1978年集団の定期演奏会でフルートにかわり尺八での演奏を試みて以来、この形での演奏が何回かされてきました。

曲は律動的な中間部(フルートはC管)をはさんで、自由なリズムの導入とコーダ(コントラ・アルト・フルート)からできています。二十絃箏とフルート(尺八)の副広い表現力とテクニックを駆使して互いにぶつかり合う、燃焼度の高い二重奏曲と言えます。演奏時間は約12分。

## 萌春

尺八(1尺6寸管)のもつすんだ音色と、箏の端々しさを萌出する春を表現しています。幻想曲風な自由な形式によるもので、最近では宮城道雄の「春の海」と並んで尺八と箏の人たちに愛奏されています。1971年の第15回定期演奏会で初演されました。演奏時間は約10分です。

箏



オリジナル立奏台

# 二十絃箏

箏を愛するすべての人の繊細な感情を忠実に音に表現するために、楽器の本質を追求した箏

日本音楽集団推薦

# 琴光堂和楽器店

中島 隆

〒152 東京都目黒区碑文谷2-19-15

TEL 東京03-792-8481 横浜連絡所 045-363-5448